



ハノイ駅の改札口とホームの間に設置した段差解消機。通関トラブルや市内での大型貨物の搬入時間制限も乗り越え無事設置。駅員の反応も上々だ。



# 高齢者・障害者に「移動の自由」を ベトナムのバリアフリー化推進を支援

ベトナム

「高齢者・障害者向けいす式階段昇降機・段差解消機事業の案件化調査」  
2019年6月～2021年12月

栃木県 シンテックス株式会社

ベトナム戦争などの影響で障害者が多く、急速な高齢化も予測されるベトナムでは、バリアフリー化に向けた取組が課題となっています。椅子に座って階段を昇降できる「階段昇降機」、車いすのまま段差を移動できる「段差解消機」の展開を通じ、ベトナムのアクセシビリティ向上に貢献するシンテックス株式会社の取組について、八木澤恭子代表取締役にお話をうかがいました。



本邦受入活動ではベトナム側から2名が参加。厚生労働省や栃木県庁、「タスカル」シリーズ設置箇所などを訪問した。

ベトナム社会主義共和国  
(Socialist Republic of Viet Nam)  
首都：ハノイ  
人口：約1億30万人  
(2023年 ベトナム統計総局)  
面積：32万9,241km<sup>2</sup>(日本の約8割)  
気候：温帯夏雨気候(北部)  
(年間平均気温：約24℃)

VIET NAM



Laos Hanoi  
Thailand  
Cambodia

## Episode

ベトナム戦争や国境紛争による傷病兵や枯葉剤被害者を含む障害者は700万人を超え、その失業率は約9%と、教育・雇用機会を制限する物理的バリアの解消が急務となっています。さらに日本以上の速さで高齢化が進むと予測され、バリアフリー整備の重要性は一層高まっています。

## ベトナムの高齢者と障害者を阻む バリアフリー化の遅れ

経済成長が著しいベトナムですが、加速する高齢化への対策に加え、障害者の失業率は全体の4倍超となるなど、障害者と健常者との格差は正が喫緊の課題となっています。ベトナム政府は2011年施行の障害者法をはじめ様々な施策<sup>(注1)</sup>において、公共施設・交通機関等のバリアフリー化を掲げていますが、実情は整備が遅れており、設備や器具、介助者が不足しています。

当社は钣金加工メーカーとして培った技術を生かし、高齢者・障害者向けの階段昇降機・段差解消機「タスカル」シリーズ<sup>(注2)</sup>を開発・製造・販売しています。日本の住宅事情と体格に合わせた設計で、国内トップシェアを獲得。かねてより新しい生産拠点としてベトナムを検討していましたが、足がかりを模索していた際にJICA中小企業・SDGsビジネス支援事業を知りました。JICA担当者から「ベトナムのバリアフリー化は不十分。生産だけでなく販売も視野に入れてみては」と助言を受け、応募を決意しました。

## 高いニーズと満足度を確信、事業展開に手応え

案件化調査では、現地の障害者支援団体に生の声を聞いたほか、民間・公共施設の現況を視察。エントランスに段差があることや、法整備前の古い建物の多くでエレベーターがないなど、バリアフリー環境は日本の30～40年前の水準で、公共空間におけるアクセシビリティ不足を再確認しました。当社の製品は、既存建物にも後付けできる施工性、狭小空間にも設置可能なコンパクト設計が強みです。公共施設はもちろん、縦長の家や三世帯同居が多い一般家庭での潜在ニーズを確信し、現地適合性の調査を進めました。

カウンターパートとして建設省と労働・傷病兵・社会問題省(MOLISA)にアプローチし、両省の協力を得て、ハノイ市内の整形リハビリ病院にいす式階段昇降機を、ハノイ駅に段差解消機を1台ずつ設置しました。技術面の問題はなかったものの、制度面では福祉機器に関する建築基準法や安全規格が未整備であったため、ベトナム政府への政策提言も提出。JICAベトナム事務所の支援により、関係省庁との調整や政策提言の提出の後押しが得られたことは、その

後の事業展開において大きな意義をもたらしました。約7か月間のデモ設置では、病院から「患者の移動が楽になった」との声が寄せられ、利用者・介助者へのアンケートでも90%以上が操作性・乗り心地ともに高評価。MOLISAや院長も「ぜひ導入したい」と非常に前向きでした。

しかし、ネックとなったのが価格です。日本から輸出すると現地の予算感とはかけ離れてしまうため、現地生産化が不可欠だと判断。途中、コロナ禍の渡航制限下でも、現地専門家と連携してサプライヤーとの協議や工場予定地の確認をオンラインで進め、生産拠点づくりを推進しました。

## アジア全体のバリアフリー化を目指して

2024年12月にはハノイに子会社を設立し、生産・販売・メンテナンスを含むバリューチェーンを構築したほか、日本国内でも10数名のベトナム人材が活躍しており、将来の現地事業を担う人材育成にも注力しています。

本調査の最大の成果は、当社単独では構築不可能な省庁や病院とのパイプを含め、現地とのつながりを築けたこと。JICAベトナム事務所には省庁への橋渡しから現地部品メーカーのリスト提供まで支援いただき、心から感謝しています。挑戦への後悔は一切なく、実りある調査となりました。

当社の製品は、高齢者や障害を持つ方々の自立を支え、生活の質(QOL)を高めるものです。事業拡大の根底にあるのは、製品を通じて「移動の自由」に貢献し、「助かる」を届けたいという想い。今後はベトナムを拠点に中国も視野に入れ、アジア全体のバリアフリー化に尽力していきます。

(取材時期：2025年7月)

シンテックス  
代表取締役  
八木澤 恭子 氏



ハノイ整形リハビリ病院との調印時の記念写真。

(注1)様々な施策

2004年に国家高齢化委員会を設置、2015年には国連障害者権利条約を批准。しかし、公共空間のバリアフリー化は2025年の達成目標から2030年へと延期されるなど、法整備は進む一方で、具体的支援は十分ではありません。

(注2)「タスカル」シリーズ

階段昇降機「タスカル」は、階段にレールと椅子を取り付け、座った状態で階段を昇降できる装置。屋内外や直線・曲線階段にも対応し、エレベーターの追加設置より安価で大規模改修も不要です。段差解消機「タスカルリフト」は玄関口などの段差に設置し、車いすのまま垂直移動を可能にします。操作も簡単で、スロープより省スペースです。

会社名：シンテックス株式会社

本社：栃木県さくら市

設立：1971(昭和46)年

代表者：代表取締役 八木澤 恭子

従業員：110名(2025年7月現在)

事業内容：機械钣金加工・福祉機器の開発・製造・販売等

<https://syntex.co.jp/>

## ODA 事業の情報

本記事の事業は、日本政府(外務省)と国際協力機構(JICA)が連携して進める「中小企業・SDGsビジネス支援事業」として採択されたものです。詳しくはJICAホームページでご確認ください。

[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv\\_partner/index.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html)



ハノイ整形リハビリ病院へのデモ設置の様子。デモ期間中、病院エレベーターの故障も重なり大活躍した。左はデモ機と同等の階段昇降機。屋外設置も可能。